

第20回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 競技規則(バスケットボール)

1 競技規則

本規則に定める以外は、「全国障害者スポーツ大会競技規則集(公益財団法人日本パラスポーツ協会編)」及び別に定める実施要領によるものとする。

2 チーム

- (1) チームの構成は、コーチ1名、アシスタントコーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内とする。ここでいうコーチとは、ゲーム中、実際にチームを指揮する者を指す。
- (2) コーチ、アシスタントコーチ、又はマネージャーが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合、選手の数には選手を兼ねるコーチを含めて12名以内とする。
- (3) ユニフォームを持たないチームは、主催者の用意するビブスを着用する。
- (4) 男女別にチームを構成する。

3 競技方法

- (1) 試合は、原則として男女別にトーナメント戦方式で行う。
- (2) 試合時間は、10分クォーター制とし、第1ピリオドと第2ピリオドの間及び第3ピリオドと第4ピリオドの間にそれぞれ2分のインターバルをおく。また、第2ピリオドと第3ピリオドの間に10分のハーフタイムをおく。

4 競技者の服装等

背番号は、4から15までの番号を使用し、審判とスコアラーにはっきりと分かるように付けること。

5 試合球

試合球は、公益財団法人日本バスケットボール協会主催大会公式試合球とし、男子は7号球、女子は6号球とする。

第20回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 競技規則(ソフトボール)

1 競技規則

本規則に定める以外は、「全国障害者スポーツ大会競技規則集(公益財団法人日本パラスポーツ協会編)」及び別に定める実施要領によるものとする。

2 チーム

- (1) チームの構成は、監督1名、コーチ2名以内、選手15名以内とする。
- (2) 監督及びコーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合の選手人数は、選手を兼ねる監督及びコーチを含め15名以内とする。
- (3) 男女混合のチーム構成も可とする。

3 競技方法

- (1) 試合はトーナメント方式とし、3位決定戦を実施する。
- (2) 試合は5回までとし、試合開始後60分を経過した後は、新しい回に入らない。
原則として、同点の場合は2回まで15分以内で延長し、それでも勝敗が決しない場合は、最終出場選手9名の守備位置順による抽選により決する。ただし、決勝戦の延長は勝敗が決するまで行う。
- (3) コールドゲームは3回終了後10点差、降雨・日没等は3回終了で有効とする。
- (4) 試合球は、検定3号ボールとする。
- (5) 競技場のフェア地域及び塁間距離と投球距離は、女子の規格に準じる。
- (6) ファーストピッチにより行う。
- (7) パスボール、振り逃げ、スクイズバントは適用しない。
- (8) 盗塁が行われたとき、該当する走者はアウトとする。
ア ピッチャーが投球したボールが、ホームベースを通過した時点でボールデッドとし、盗塁、キャッチャーからの牽制、暴投による進塁など、その後のプレーは成立しない。
イ ランナーが帰塁を故意に遅らせた場合は、審判団から厳重に注意をし、再度繰り返す場合は、審判団の判断で遅延行為によりランナーをアウトとする。
- (9) ホームランゾーン(60m)を設定する。また、ゴロでホームランゾーンを超えた場合は、エンタイトル2ベースとする。
- (10) 指名選手(DP制)、再出場(リエントリー制)を採用する。

4 競技服装等

- (1) 打者、打者走者、走者、次打者席内にいる次打者及び一・三塁のベースコーチは、両耳あてのある同色のヘルメットを着用する。また、捕手は、スロートガード付マスク、捕手用ヘルメット、ボディプロテクター及び膝当て付きレガースを着用する。

- (2) 金属製のスパイクは禁止する。

5 その他

- (1) 試合ごとに、打順表を試合開始30分前に主審に提出する。
- (2) その他、競技に関する取り決めは、協議により決定する。

第20回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 競技規則(知的バレーボール)

1 競技規則

本規則に定める以外は、「全国障害者スポーツ大会競技規則集(公益財団法人日本パラスポーツ協会編)」及び別に定める実施要領によるものとする。

2 チーム

- (1) チームの構成は、監督1名、コーチ1名、マネージャー1名、選手12名以内とする。
- (2) 男女別にチームを構成する。

3 競技方法

- (1) 試合は、原則としてトーナメント方式とし、3位決定戦を行う。
- (2) 全試合3セットマッチとする。
- (3) 1セット25点のラリーポイント制とし、2セットを先取したチームを勝ちとする。なお、得点が「24対24」の同点となった場合、それ以降は2点リードしたチームがそのセットの勝者とする。
- (4) 第3セットは25点制で行い、コートの変更はいずれかのチームが13点先取した時に行う。
- (5) ネットの高さは、男子2.30m、女子2.15mとする。
- (6) 試合は、ワンボールシステムで行う。

4 競技服装

- (1) 背番号は、1番から12番までが望ましい。やむを得ない場合は、1番から99番までとする。
- (2) リベロプレーヤーを採用する場合は、他の競技者と明確に区別できるユニフォームを着用すること。

5 試合球

(公財) 日本バレーボール協会検定球5号球(人工皮革・カラーボール)とする。

第20回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 競技規則(精神バレーボール)

1 施設と用具

- (1) コートは 18m×9 m の広さを持つ長方形とする。
- (2) ネットの高さは 2m24 c m とする。
- (3) ボールは日本ソフトバレーボール連盟制定のモルテンソフトバレーボール 球・糸巻きタイプ (円周 78±1 c m、重量 210±10 g) の規格のものを使用する。

2 競技参加者

- (1) チームの選手構成は、男女混合とし、試合中は女性が 1 名以上参加するものとする。
女性選手が出場不可能になった場合は、その時点でゲーム終了とし、そのセット以降は無効となり不戦敗とする。
- (2) フリーポジション制とする。

3 競技方法

- (1) 予選は原則としてリーグ戦方式とし、順位を決定する。
- (2) 予選リーグで勝率が同率の場合は、セット率、ポイント率の順で順位を決定する。
- (3) 試合は全試合 3 セットマッチとする。
- (4) 1 セット 25 点のラリーポイント制とし、2 セットを先取したチームを勝ちとする。

なお、得点が「24 対 24」の同点となった場合、それ以降は 2 点リードしたチームがそのセットの勝者とする。
- (5) 最終セット (第 3 セット) でリードしているチームが 13 点に達した時に、コートを交替する。
- (6) それぞれのチームには、1 セットにつき最大 2 回のタイムアウトと 6 回の競技者交代が認められる。(監督あるいはゲームキャプテンのみが要求できる) 交代の際には、6 人制競技規則に基づいた交代の方法を取る。
- (7) タイムアウトは 1 セットにつき 2 回 (1 回 30 秒間) まで取ることができる。
- (8) スターティング・ラインアップの競技者は交代によりコートを離れても、1 セットにつき 1 度だけスターティング・ラインアップの元のポジションに戻るることができる。
- (9) 例外的な交代として、負傷した競技者の代わりに、その時点でコート上にいないいずれかの競技者と交代ができる。ただし、交代後も必ず女性選手が 1 人以

上出場していなければならない、不可能な場合には、その時点でゲーム終了とし、そのセット以降、無効となり不戦敗とする。

(10) サービスの実行

- (ア) 主審がサービス許可の吹笛後 8 秒以内にボールを打たなければならない。
- (イ) サーバーはエンドラインの後方、かつサイドライン延長線の内側で打たなければならない。その際にエンドラインを踏んではならない。
- (ウ) サービスはボールがトスされたか、手から離された後、片方の手または腕で打つ。
(片方の手のひらに置いたままのボールを、もう片方の手で打つことはできない。)
- (エ) サーバーがボールをヒットするまでは、ローテーション・オーダーに従って位置し、ボールが打たれた瞬間から自由に移動してプレーすることができる。

(11) プレー上の動作

- (ア) サービスを直接アタックもしくはブロックして相手コートに返すことはできない。
- (イ) 両手の手のひらを上に向けてのアンダーハンドパスは可とする。
- (ウ) フリーポジション制のため、リベロプレーヤーの登録はしない。
- (エ) ボールをプレーする動作中の選手による両アンテナ間のネットへの接触は反則である（タッチネット）

(12) 競技者は、フロントやバックなどの位置による一切の制限を受けずに、自由に移動してプレーすることができる。

ただし、サーバーによってボールが打たれる瞬間までは、それぞれのチームは各自のコート内でローテーション・オーダーに従って位置しなければならない。（サーバーは除く。）

(13) 試合開始時間

- (ア) プロトコールは、日本バレーボール協会 6 人制競技規則に準拠し 11 分で行う。
- (イ) 予選リーグは、前の試合終了後にプロトコールを開始する。
ただし、同一チームが連続して試合を行う場合は、試合終了 10 分後にプロトコールを開始する。
- (ウ) 決勝トーナメントは、予選リーグ最終試合終了 30 分後に準決勝戦のプロトコールを開始する。決勝戦・3 位決定戦は、準決勝終了 15 分後にプロトコールを開始する。

4 服装

- (1) ナンバーは、ユニフォームの胸部と背部の中央に付けなければならない。
- (2) チームキャプテンは、胸のナンバーの下にマーク（横線）を付けなければならない。

(3) 監督・コーチ・マネージャーはそれぞれ胸にワッペンを付けなければならない。

5 監督・コーチ・キャプテン

(1) 競技中断中の時、ゲームキャプテンだけが審判に対して話すことができる。

(2) 監督はベンチの記録席に最も近い位置に座る。ただし、一時的にベンチを離れてもよい。

(3) 監督は試合を妨害あるいは遅延しない限り、アタック・ラインの延長線からエンドラインまでのフリー・ゾーンの範囲内では、立ったままで、あるいは歩きながら指示を与えることができる。

(4) コーチ、マネージャーはベンチに座るが、試合に介入することはできない。

6 その他

本規則に定める以外は「全国障害者スポーツ大会競技規則集(公益財団法人日本パラスポーツ協会編)」及び別に定める実施要領によるものとする。

第 20 回兵庫県障害者のじぎくスポーツ大会 競技規則(サッカー)

1 競技規則

本規則に定める以外は、「全国障害者スポーツ大会競技規則集(公益財団法人日本パラスポーツ協会編)」及び別に定める実施要領によるものとする。

2 チーム

- (1) チームの構成は、監督 1 名、コーチ 2 名及び選手16名以内とする。
- (2) 監督、コーチが選手を兼ねる場合は、選手名簿に登録されていなければ選手として出場できない。この場合、選手の数には選手を兼ねる監督、コーチを含めて16名以内とし、それ以外の者は試合会場には入れない。
- (3) 男女混合のチーム構成も可とする。

3 競技方法

- (1) リーグの種類及び競技方法は次のとおりとする。

ア Aリーグ(11人制)

前後半15分ずつでハーフタイムを 5 分間設ける。

勝ち点方式による試合を行う。

勝ち 3 点、引き分け 1 点、負け 0 点とする。勝ち点が同点の場合は、得失点差、総得点の順に判断し、それでも決定しない場合は、3 人ずつの P K により決定する。

イ Bリーグ(8人制)

前後半12分ずつでハーフタイムを 5 分間設ける。

予選リーグ戦を行い、合計勝ち点が多い各 1 位チームが決勝、2 位チームが 3 位決定戦に出場する。

勝ち点が同点の場合は、得失点差、総得点、直接対決の順に判断し、それでも決定しない場合は、抽選により決定する。

決勝戦、3 位決定戦は延長なしで、3 人ずつの P K により決定する。抽選はしない。

ウ Sリーグ(8人制)

前後半10分ずつでハーフタイムを 5 分間設ける。

予選リーグ戦を行い、合計勝ち点が多い各 1 位チームが決勝、2 位チームが 3 位決定戦に出場する。

勝ち点が同点の場合は、直接対決、得失点差、総得点、の順に判断し、それでも決定しない場合は、抽選により決定する。決勝戦、3 位決定戦は延長なしで、3 人ずつの P K により決定する。抽選はしない。

- エ ただし、参加チーム数によってはトーナメント方式で行う等、主催者側によって上記ア～ウの内容より変更する場合がある。

- (2) 試合球は、公益財団法人日本サッカー協会検定 5 号球とする。
- (3) 選手の交代については、自由な交代とし、交代して退いた選手が交代要員として再び出場することができる。
- (4) ベンチには名簿に登録された監督 1 名、コーチ 2 名、選手 16 名（1 チーム最大 19 名）までが入ることができるが、安全管理上必要な場合を除き、保護者・施設・学校関係者を含めそれ以外の者はグラウンド内の立ち入りを禁止する。

4 競技服装等

- (1) 危険防止用にすねあてを着用する。（厳守）